



キルギス

プロジェクトヒストリー「漫画版」

品質を追求し キルギスの ブランドを世界へ

途上国支援の新たな可能性「一村一品プロジェクト」

原作・監修：原口明久

漫画：tami

一村一品 (OVOP:One Village One Product)
プロジェクト——
地域ごとの特産や強みに注目し
一品に磨きをかけて価値を高める
住民自らの手で地域を元気にする取り組みだ



JICAはその理念を発展途上国にも広め
多くの国で成果を上げており
キルギスもその一つである



しかし



このプロジェクトが
実を結ぶまでには
数々の困難があった

キルギス共和国は
3,000m級の山々に囲まれ
避暑地としても知られる
「桃源郷」のような場所だ

山の恵みを生かし
果樹や畜産で
暮らしを支えてきた

キルギス

しかし
1991年のソ連崩壊により
流通や技術支援が途絶え
経済は低迷

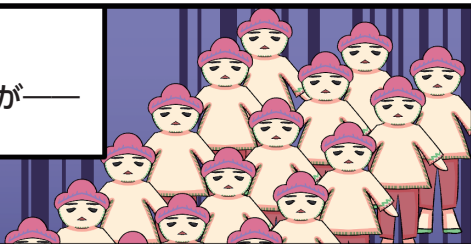
地方では仕事がなく
若者は都会や海外へ
出ていき
貧困が進んでいた

JICAでは2007年から
最も“観光ポテンシャル”が
ありながら
開発されていない
“イシククリ州”で
OVOPプロジェクトを始動

START!

イシククリ州

ジャムやフェルト製品などが
住民の手で次々と作られていったが――



思うように利益が上がらず
生産メンバーも減少
活動継続の危機に陥ってしまう

そんな状況を見て立ち上がったのが
原口明久だった

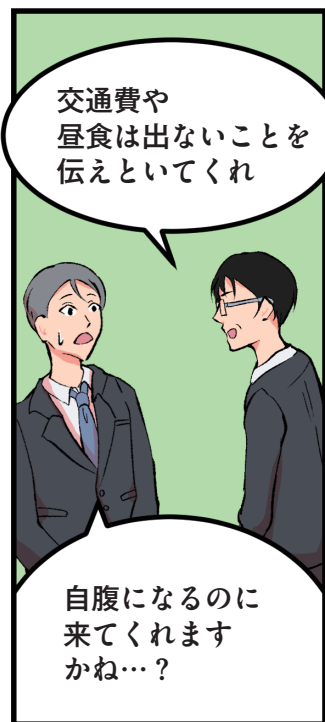
こんなにOVOPの
ポテンシャルがあるのに…
終わらせてしまうのは
もったいない…！

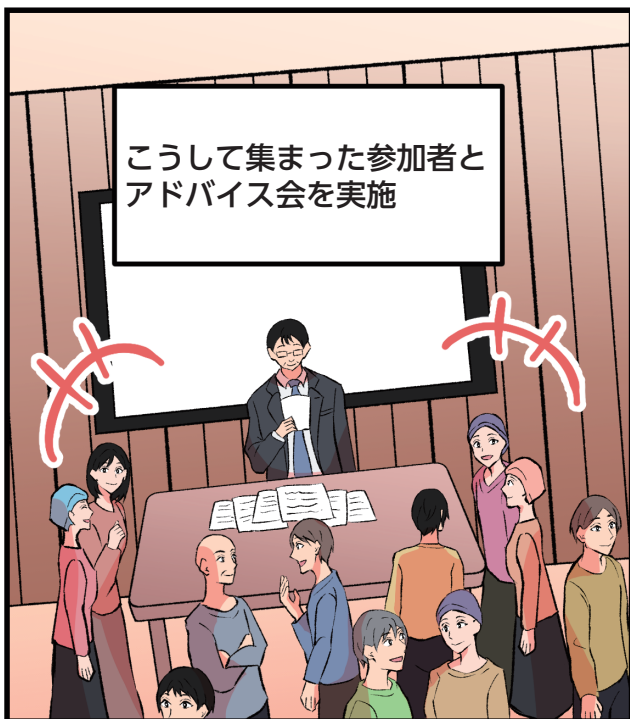
原口明久

2009年1月JICAキルギス事務所に
着任







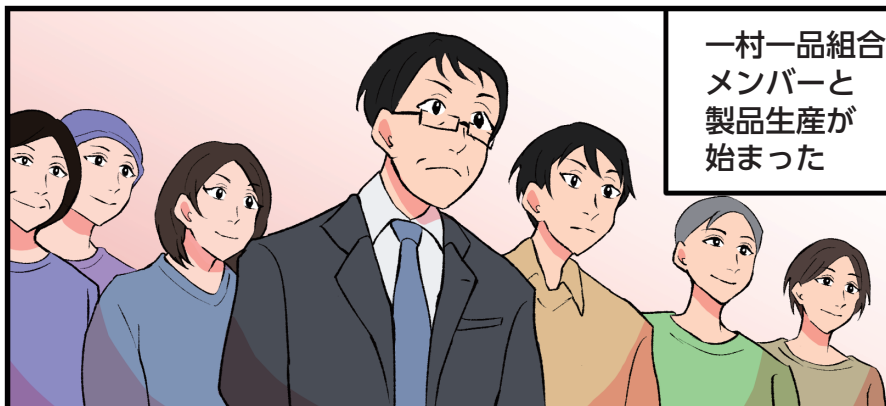




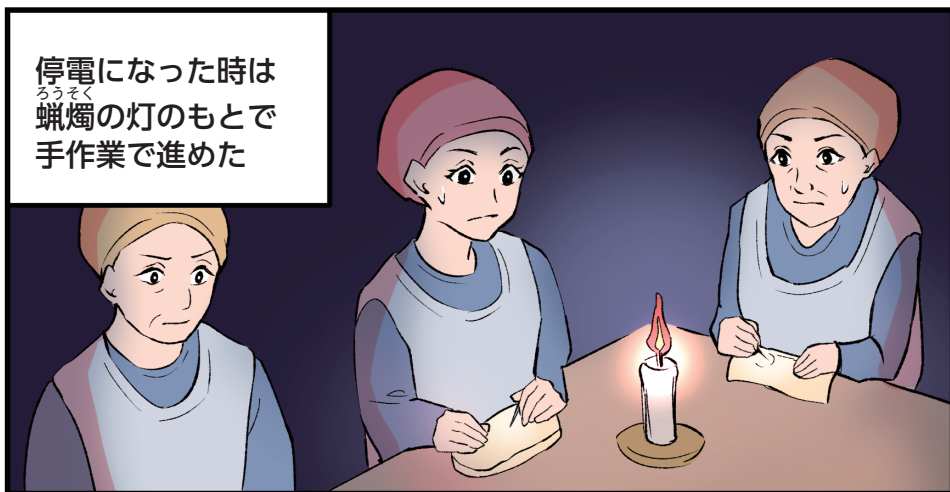
素材や製法にこだわりを持つ
良品計画と話し合い
キルギスの羊毛を使った
フェルトのペンケースと
フェルトボールの製作が決定



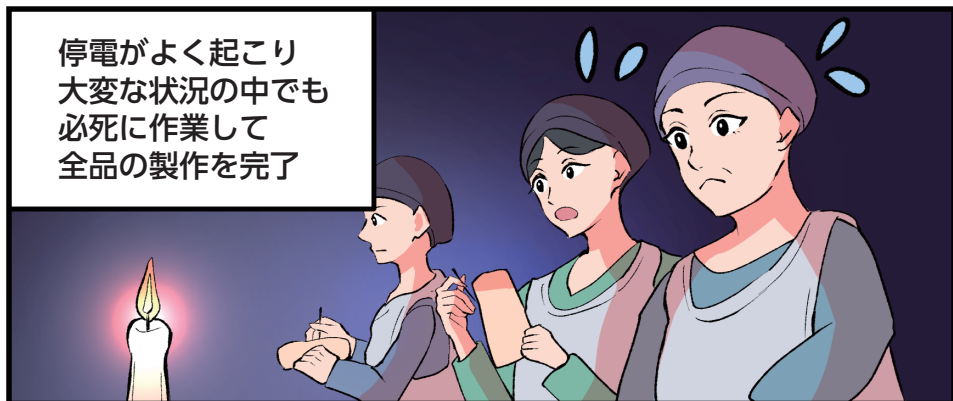
一村一品組合の
メンバーと
製品生産が
始まった



停電になった時は
ろうそく
蝋燭の灯のもとで
手作業で進めた



停電がよく起こり
大変な状況の中でも
必死に作業して
全品の製作を完了



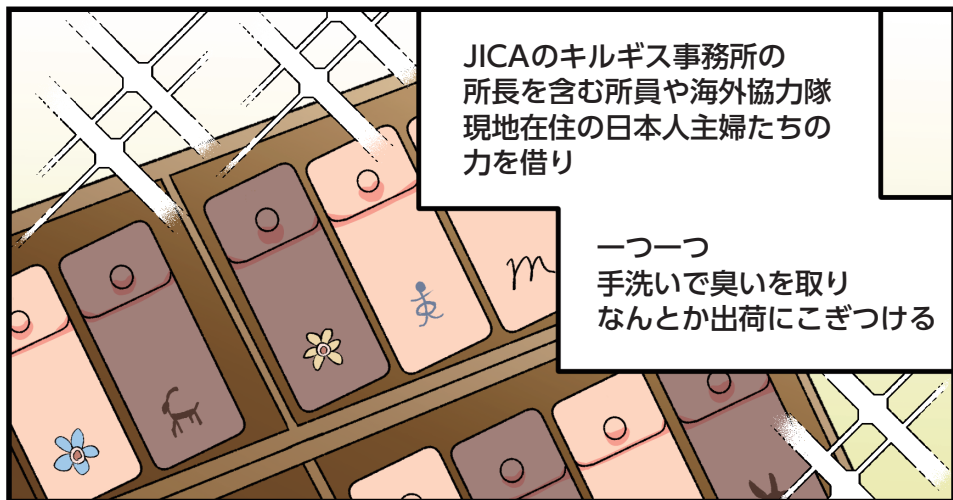
う…
においが…!!

しかし、納品直前に
製品の臭いが気になる
トラブルが発生



JICAのキルギス事務所の
所長を含む所員や海外協力隊
現地在住の日本人主婦たちの
力を借り

一つ一つ
手洗いで臭いを取り
なんとか出荷にこぎつける



生産開始から半年——
その間
納品しても支払いがなく

だまされたんじゃないか...

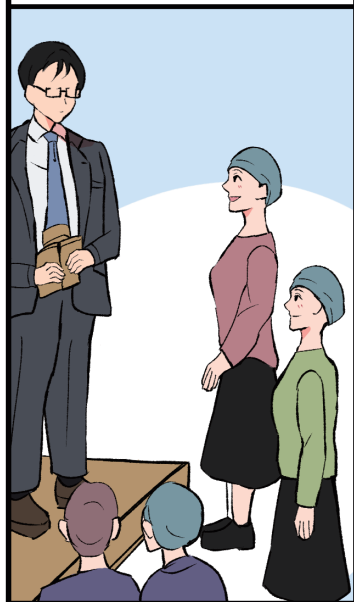
どうなってるの？

6カ月も支払いがない...

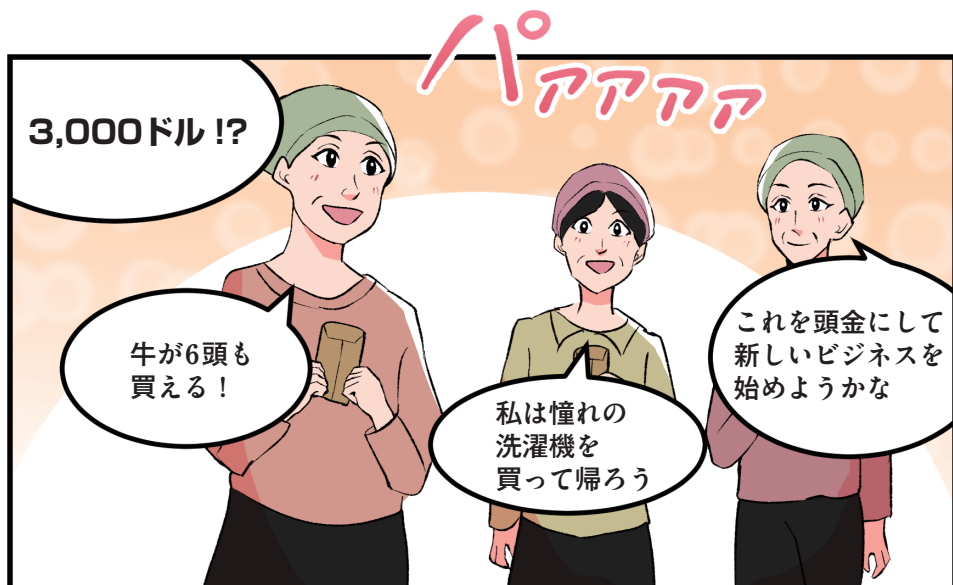
生産者の間には不安と
疑念が広がっていた

そんな中
生産開始から7カ月後の
2011年11月
ついに支払いが行われた

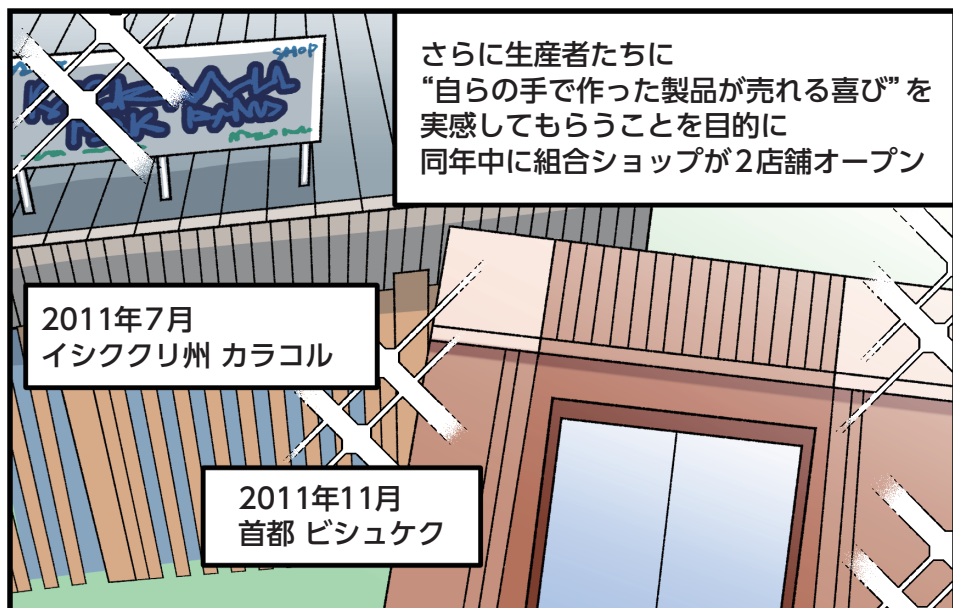
あなたへの支払いは…
3,000ドル※です



※当時の日本円で約24万円



3,000ドルという報酬は
一村一品関係者だけでなく
地域全体への
大きなインパクトとなった



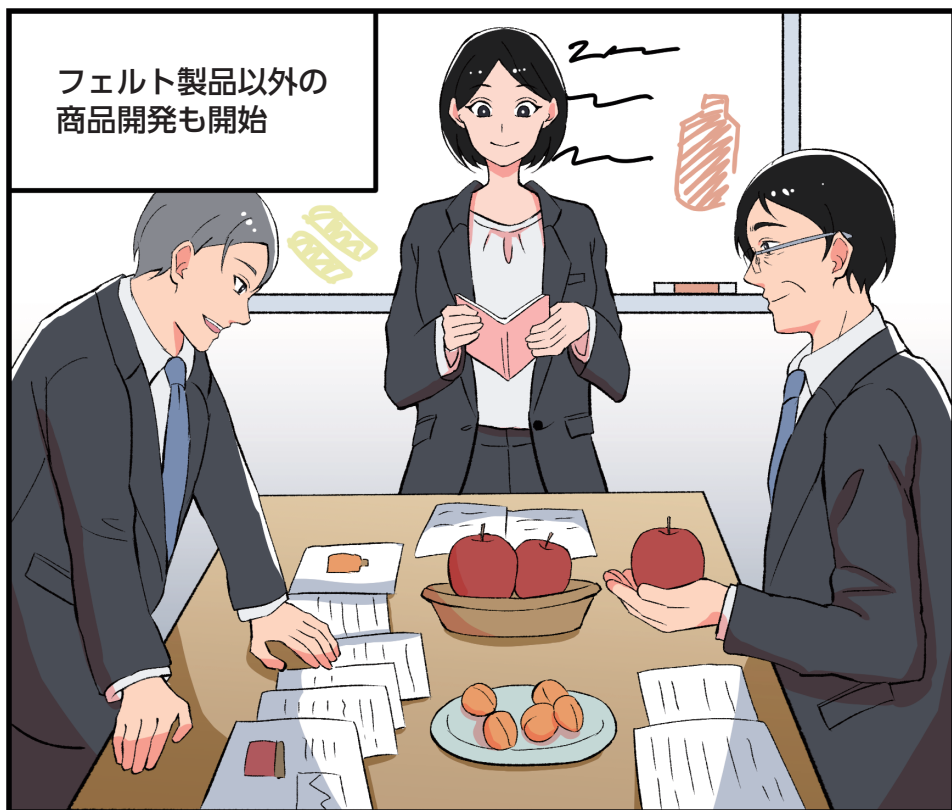
2012年
原口はOVOPプロジェクトの
チーフアドバイザーに



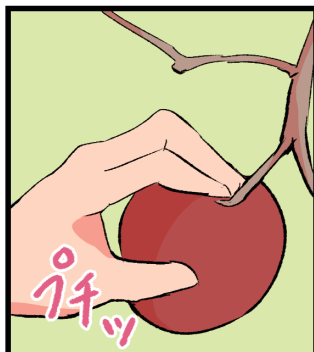
指針をしっかり定め
プロジェクトのDNAを
胸に刻みながら成功を
収めるんだ！



フェルト製品以外の
商品開発も開始



これまで
リンゴやアズナギ草などは
消毒や摘果をせずに放置



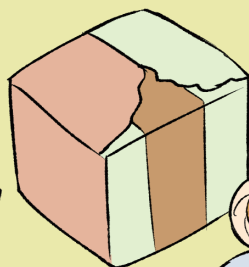
収穫期が来たら
収穫して二束三文で
売っていた

それらの果実を加工して
キルギスブランドのジャムや
ジュースへと商品化

アンズ、リンゴや
ワイルドベリーを
使ったジャム



乾燥プラム



アンズクッキー

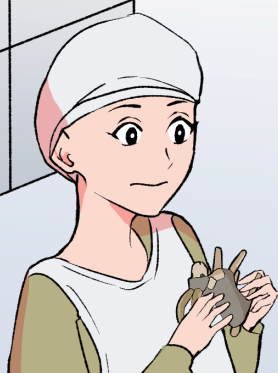
ラズベリージュース



『ほったらかし農法・果樹』と命名し
“何もしないからおいしい果実”として
新たにブランド化していった

良品計画への商品生産も
2年目に突入

良品計画からの指導のもと
マニュアルの作成や作業の
効率化など
さまざまな工夫が施された





どんどん現場の皆の能力が
上がっていくな



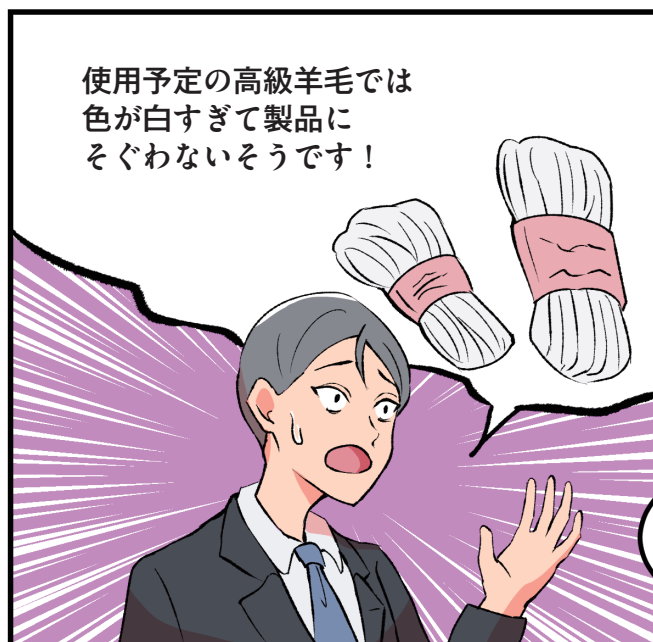
あとは
この組織の運営や
ビジネスを支援する
新しい組織が必要だ

そのためには
リーダーがいないと
成り立たない



誰にしようか…

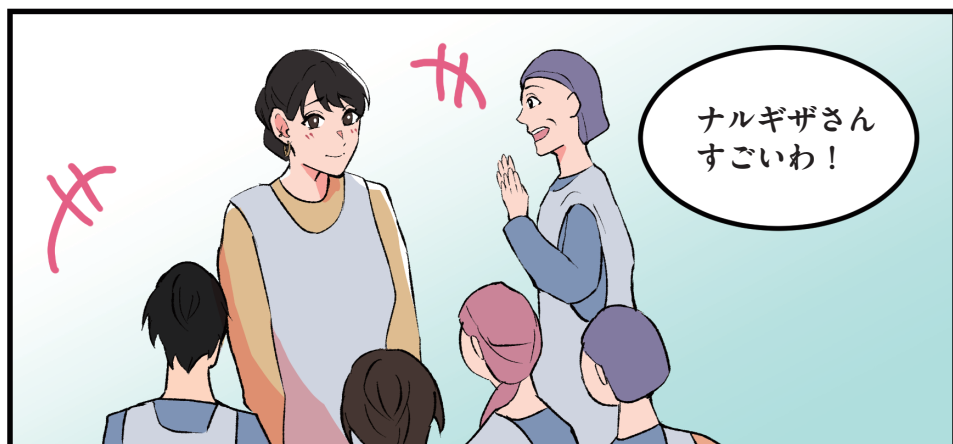
原口さん！大変です！
良品計画から連絡が！



※生成(きな)り：加工や染色をしていない糸や布

金銭的に損はしてしまうが
良品計画への納品のため
工場と交渉

生成りを無事に手に入れて
生産を続行でき
良品計画への2年目の
納品も完了した

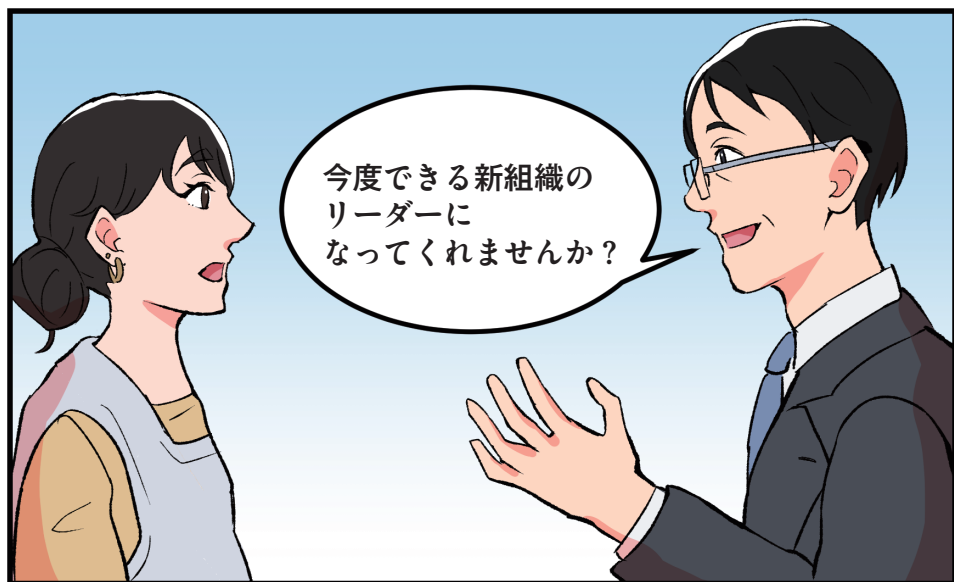


彼女の名前は
ナルギザ・エルキンバエバ

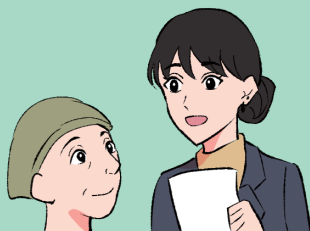
責任感が強く
今回のような危機を乗り越える
発想力があつた

ワへ
サワへ

ナルギザさん



ナルギザが一村一品組合の
運営管理とビジネスを支援する
新組織「OVOP+1」の
リーダーに就任

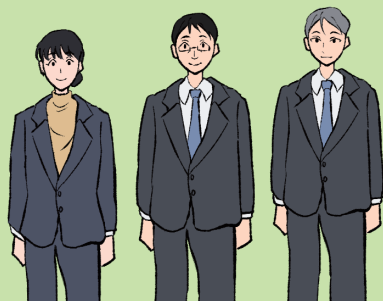


OVOP+1では
経理、営業

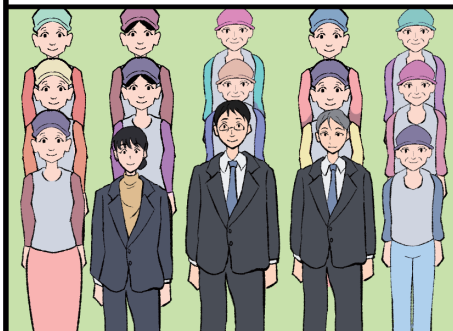
ありがとう
ございました！

ショップ店員への
指導などを行い
地道に人材育成に励んだ

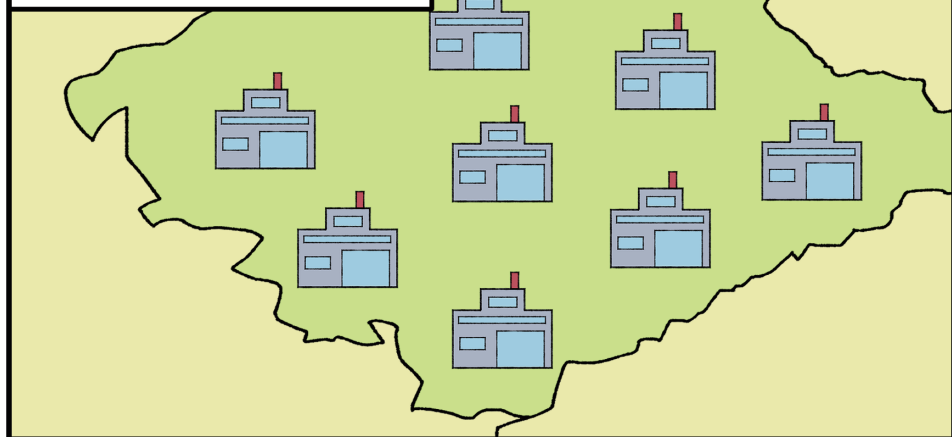
設立当初は
3名だったスタッフは



2023年12月には
49名にまでなった



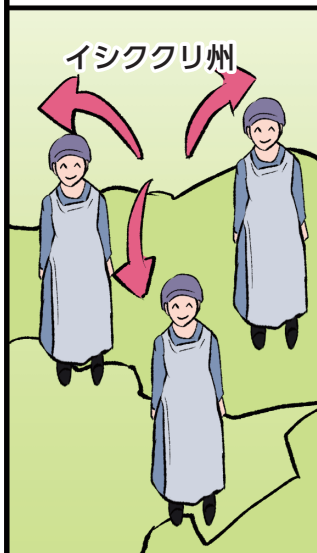
各地に小さな工場を増やし
生産量を増やすことで
ビジネス拡大を目指していく



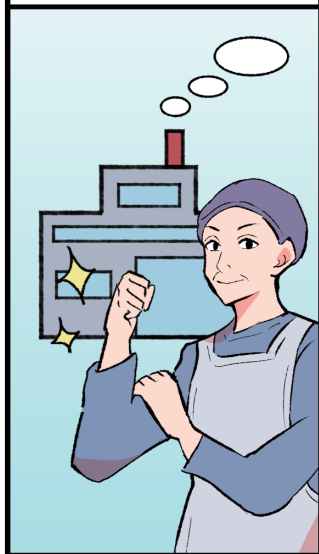
まず3～8名の
小さなグループで
製品生産の練習



育成した生産者を
地域全体に増やす



村に工場を作り
そこで生産者に
作業してもらう



作業現場も
働きやすいように
アップグレードし

ポカ ポカ

生産量によって
給与を支払う
システムへ

ワイ ワイ

毎日働きに
来るのが楽しい

都会の工場で
働いているみたい

私は8時間
がんばる！

今日は用があるから
2時間だけ働くわ

イシククリ州の成功により
プロジェクトは全国展開され
さまざまな商品が生まれた

イシククリ州

キルギスの宝石エスパルセット蜂蜜
牧草エスパルセットの花からとれる蜂蜜

白い蜂蜜でほのかに花の香りがする
特に日本で人気



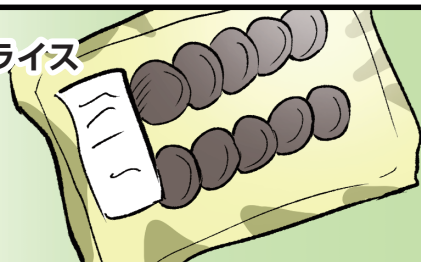
シーバクソンの果実を使った
ジュースと美容オイル
スーパーフード

シーバクソン(別名サジー)を
使った商品

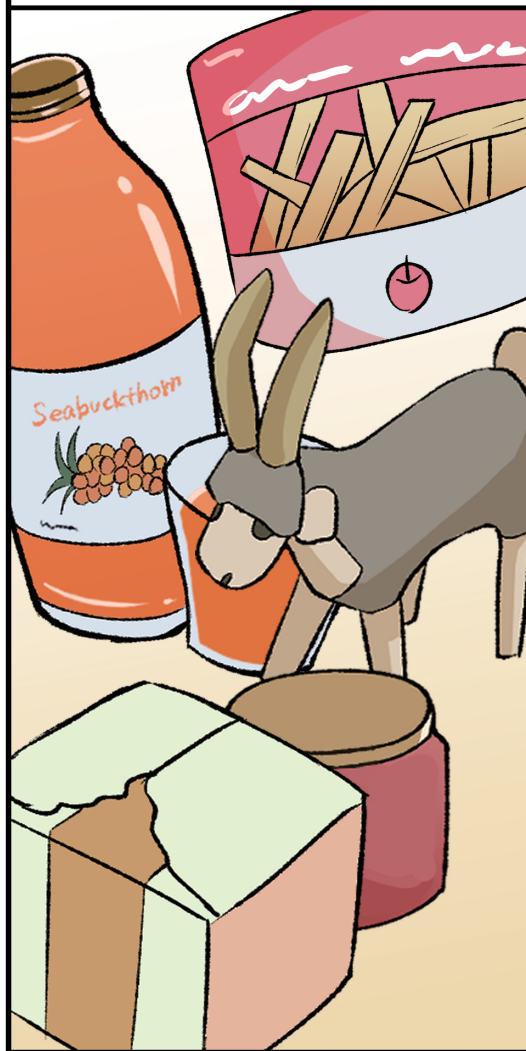


馬の腸詰めくんせいのスモーク(燻製)スライス
キルギスの伝統食品

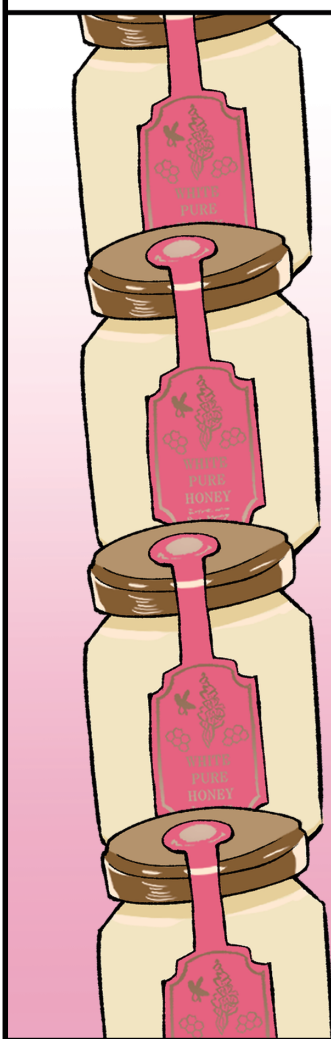
馬の腸詰めを
海外向けに食べやすいサイズに
調整したもの



一村一品商品には
すべてキルギスの伝統や
文化的背景、開発秘話があり
なんとなく作って
売っているものはない



デザイン開発も
一村一品商品
専属デザイナーを雇い
統一感を持たせ
キルギスブランドを
強調



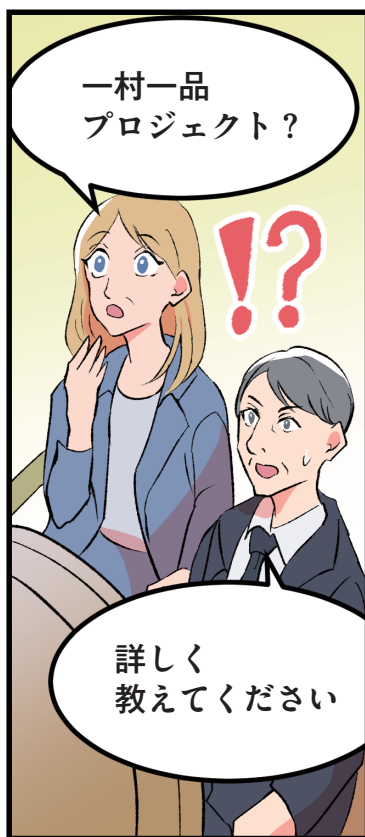
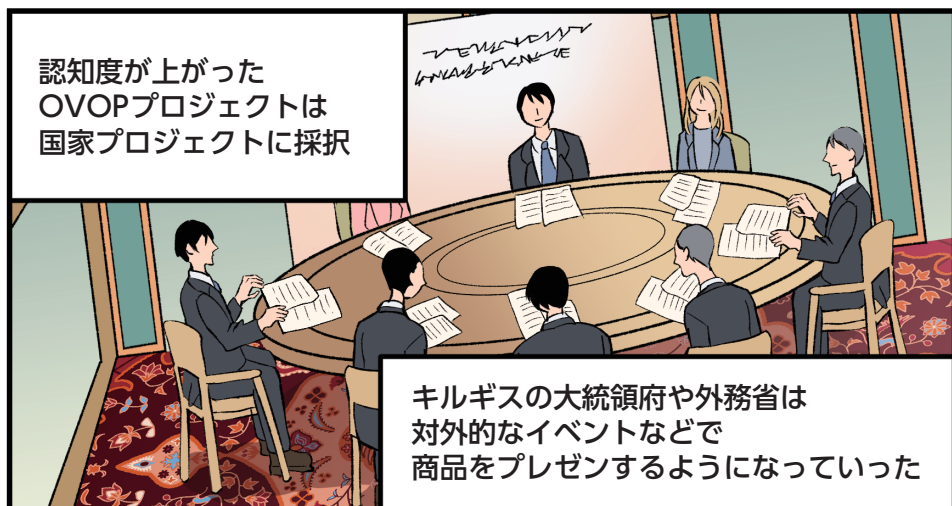
さらにブランド化した商品だけを
販売する専門店として

2017年、首都ビシュケクに
100m²ある「OVOPセンター」が
オープン

海外で働く人が帰省時の
お土産として買うことも

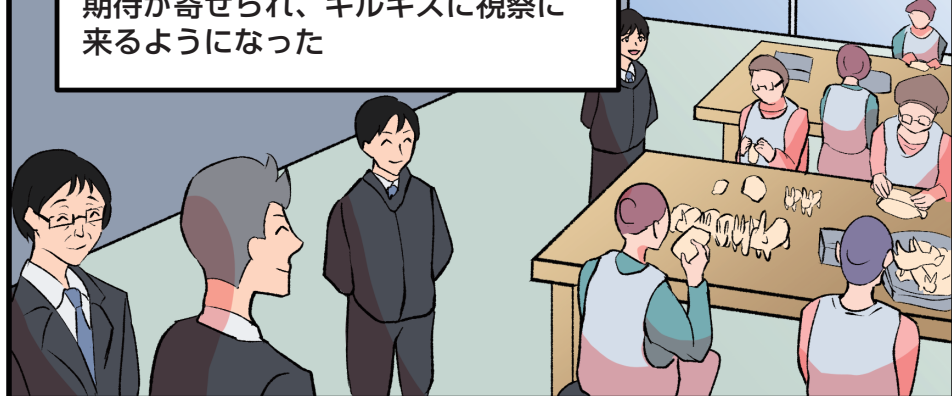
SNSで
一村一品商品の
口コミも増加

OVOPセンターが
きっかけで
空港免税店への
出店につながる

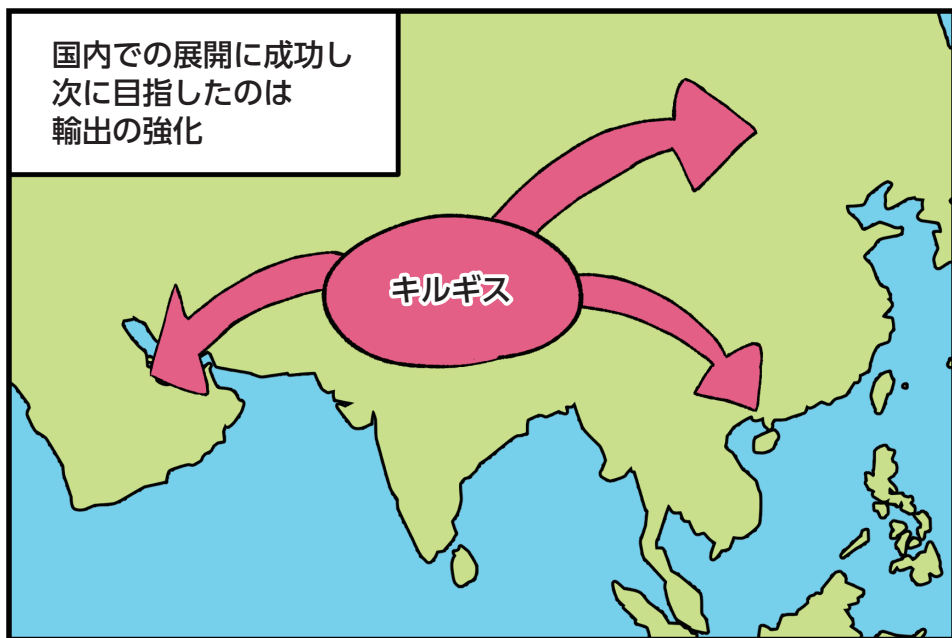


国家プロジェクトになったことで

隣国のカザフスタン、タジキスタンや
ジョージア、モンゴルといった
周辺国からもOVOPプロジェクトに
期待が寄せられ、キルギスに視察に
来るようになった

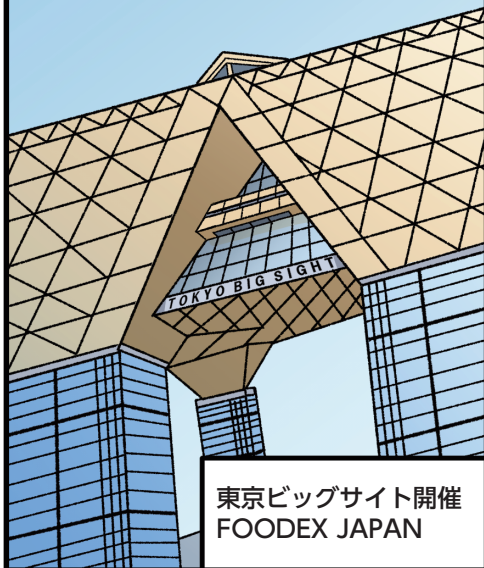


国内での展開に成功し
次に目指したのは
輸出の強化

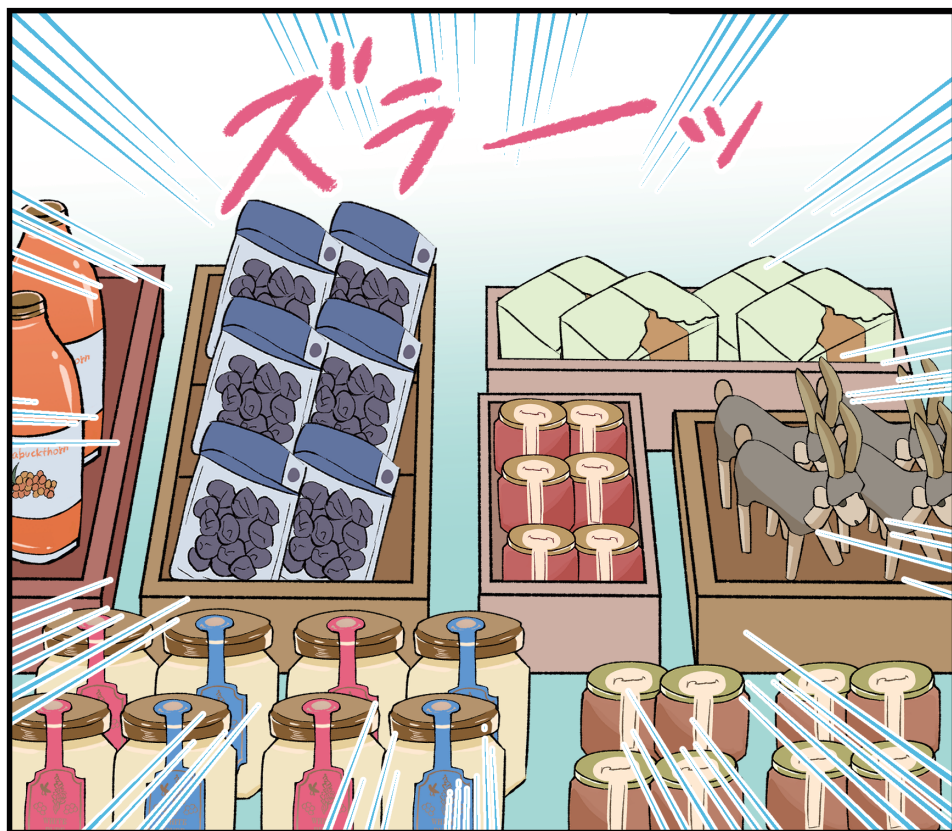


売上目標は国内 50%
輸出 50%

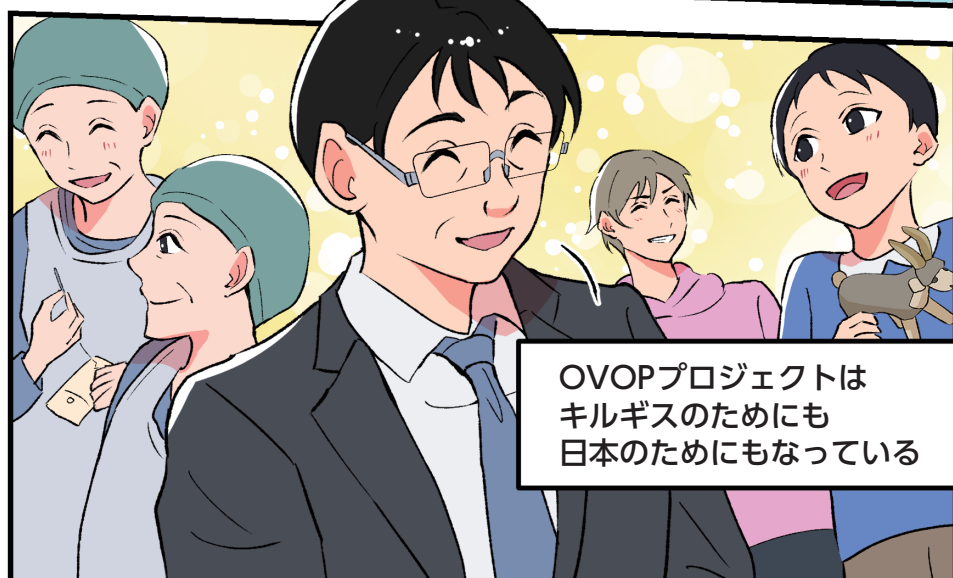
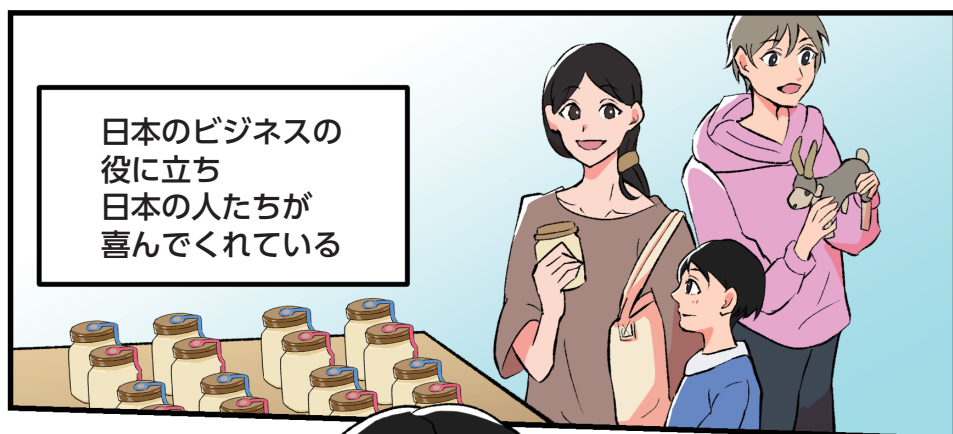
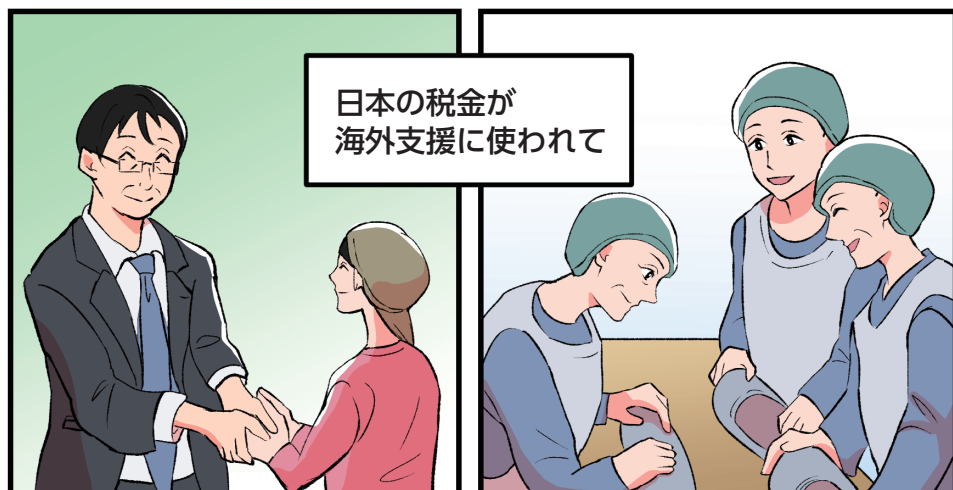
海外のイベントに
出展してみましよう！

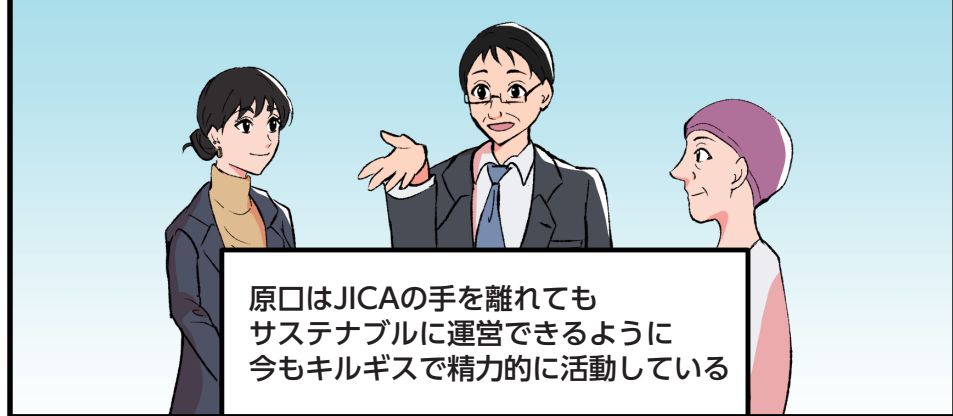


東京ビッグサイト開催
FOODEX JAPAN











独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます

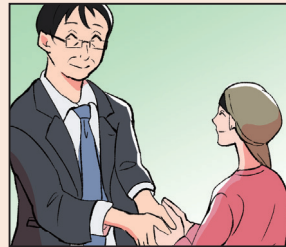
経済的自立を促すサイクルを構築

日本の大分県で生まれた「一村一品（OVOP:One Village One Product）プロジェクト」は、その地域の素材を使った特産品を作り、地域活性化を図るプロジェクトです。

JICAは、多くの国でこの取り組みに協力しており、中でも山岳国キルギスで大きな成果を上げました。

また、商品開発と並行して、生産者組合の発足やショップの運営、流通の安定化、海外展開への挑戦など、さまざまなシステムの構築にも協力しました。

JICAの協力のもと始まった一村一品プロジェクトは、その成果が認められ、2023年にはキルギスの国家プロジェクトとして採択されました。



詳しくはこちらを
ご覧ください



中央アジアに広がる日本と各国のつながり

JICAの「一村一品（OVOP:One Village One Product）プロジェクト」は、輸出にも挑戦しています。

その挑戦の一つとして、日本を含め各国で行われる見本市やビジネスマッチングに出展し、顧客の開拓を進めています。

海外との取引による新たな収益の獲得のみならず、商品の品質やビジネスマナーが向上し、キルギスでのビジネスをより活性化させることも目的です。

FOODEX JAPANや東京インターナショナル・ギフト・ショーへの参加を経て、フェルト製品、蜂蜜、ワイルドベリーなどの日本への輸出が進みつつあります。

キルギスと日本のビジネスが生まれることにより、両国の関係強化や経済発展にもつながっています。

このような一村一品プロジェクトの取り組みは、キルギスの周辺国からも高い評価を受けました。今やOVOP事業は、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、ジョージアなどの中央アジア全体へ拡大しています。



企画制作・発行：独立行政法人国際協力機構（JICA）

原作・監修：原口明久

漫画：tami

脚本・デザイン：株式会社角川アスキー総合研究所／
株式会社サイドランチ

発行年月日：2025年11月

プロジェクトヒストリー
当書籍はこちら



この作品は事実に基づいて執筆された書籍 原口明久『品質を追求しキルギスのブランドを世界へ 途上国支援の新たな可能性「一村一品プロジェクト」』を元に、再編集し制作された漫画です。